



オリンピック・パラリンピック連携授業



JISSEN WOMEN'S UNIVERSITY · JISSEN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



2014～ \ 国際理解とキャリア形成 /

『東京2020で自分たちが何ができるか？』
をテーマのPBL型授業で国際感覚を磨く！



2014年度新設され今年度で開講6年目となるアクティブラーニング型授業です。2014～2016年度は東京2020組織委員会を招き「東京オリンピック・パラリンピック、実践女子大生としてどう貢献するか？」のテーマの元、学生ならではの視点で「トランポリン競技体験」「日本文化をいかしたグッズ、イベント企画」等アイデア考え、プレゼンテーションを行いました。2017年度は株式会社アシックスの協力を受け「ボランティアウェアに関するマーケティング」をテーマに取り組み、2018年度からはスポーツニッポン新聞社のサポートのもと「2020年1月1日のスポーツ紙一面を作成する」課題で調査取材し、原稿を実際に紙面の形にしました。各年度、多彩なテーマに取り組み、東京2020大会への理解を高めています。



2018～ \ オープン講座a /

パートナー企業や組織委員会とも連携
観光産業の『多様性と調和』を学ぶ特別講座



東京2020競技大会「多様性と調和」のコンセプトで、(株)近畿日本ツーリスト首都圏の協力のもと、ユニバーサルツーリズムについて学ぶ特別講座です。「高齢者・障がい者も楽しめる渋谷観光ツアー」を課題として提示され、どのようなテーマで、どのスポットを巡るか、各スポットのバリアフリー対応状況などについても情報収集し、プランニングをまとめました。

産学連携授業の最終プレゼンテーションでは、学生が5～6人で1チームを作り、女子大生ならではの視点が盛り込まれたコースプランを連携企業の方々に各チーム企画発表しました。発表後、審査が行われ、上位3チームが選ばれました。

【指導：深澤教授のコメント】

ダイバーシティ(多様性)を意識し、ユニバーサルツーリズムを考える経験は、オリンピック・パラリンピック開催が近づく中、学生たちにとって意義深い学びとなったことと思います。



2020.06. \ 2020年度連携授業 /

コロナに負けるな！五輪メダリスト有森裕子さんが特別講義を行いました！

キャリア教育科目「国際理解とキャリア形成」(授業担当：深澤晶久国文学科教授)の授業の一環として行われ、スポーツニッポン新聞社の藤山健二編集委員との対談が実現しました。

当日は、通学途中や教室内の感染を防ぐため、学生23人がテレビ会議「ZOOM」を通して自宅から参加しました。

「五輪の楽しさ、すばらしさを学生に伝える」がテーマで、有森さんが自らの体験や信条などを踏まえて学生たちに語り掛け、「高校や大学で無名だった有森さんが実業団を目指したわけ」「陸上界の名伯楽・小出義雄監督との出会い」「流行語大賞『自分で自分を褒めたい』が生まれた理由』などの話題でディスカッションが行われました。また新型コロナウイルス感染と背中合わせの不安な毎日を送る学生らに向け、「確かに不便にはなったが、この状況だからこそ見えるものもある。ネガティブにばかりならず、この状況を自分の力に変えるものにしてください。頑張りましょう」とマイクを通して呼び掛けました。



※学生の学年・教員の職位表記は2020年度のもので
発行：2020年10月 オリパラ推進室